

# 消防庁舎・消防防災センターを建設します



消防庁舎は昭和49年に建設されたもので、建築後44年が経過し老朽化が進んでいます。

また、車両や各消防活動資機材の増加や大型化により、建物が手狭となっています。さらに、大地震が発生した場合、倒壊の恐れがあると耐震診断の結果が出ており、市民の生命・財産を守る、災害に対応できる防災拠点として、消防庁舎・消防防災センターを建設します。

外観イメージ図

## Q なぜ、旧大嶺高校敷地に移転するのか？

**A** 近年全国各地で災害が発生しています。

このような災害に対応するため、災害を受けにくい環境条件にあり、広い敷地を有し、消防署員・団員の訓練施設、市民への防災教育訓練施設が常設でき、もしもの時には消防・自衛隊・警察など応援隊の活動拠点となる場所として、旧大嶺高校敷地を建設地としました。

## Q 既存施設の利用はどうか？

**A** 既存のグラウンド・体育館・武道場・弓道場の機能を残して、今までどおり利用していただく予定ですので、今以上に消防と市民の身近な関わりが生まれると考えています。

建設工事期間中は、安全確保のため、施設の利用を一定期間制限させていただくことがあります。ご理解をお願いします。

## Q 周辺環境への配慮は？

**A** 緊急車両のサイレン音などについて、できる限りの配慮をします。

緊急車両は原則、敷地内ではサイレンを鳴らしません。出入口には十分な視距を確保し、歩行者や通行車両への安全に配慮して事故防止に努めます。

しかしながら、消防業務の特性上ある程度の音の発生は避けられませんので、ご理解をお願いします。

## Q 緊急ヘリポート運用の危険性はないのか？

**A** ドクターヘリは安全最優先で運用されており、視界良好な気象条件、日中の出動が基本とされています。

ドクターヘリは重症患者に短時間で初期治療を開始し、命をつなぎ止めます。

運用の目的とメリットに目を向けていただき、ご理解をお願いします。

## Q 消防庁舎の大きさとスケジュールは？

**A** 消防庁舎・消防防災センターは2階建て約3,000㎡（車庫部分約600㎡、5階建て訓練棟、備蓄倉庫等を含む）を予定しています。

令和元年度 設計・解体工事・建設工事・外構工事

令和2年度 建設工事・外構工事・竣工

令和3年度 移転・供用開始

## Q 建設費用の財源は？

**A** 建設費用の財源は、緊急防災・減災事業債を活用します。緊急防災・減災事業債とは、事業に対する充当率が100%、また、後年度の元利償還金の70%が国からの普通交付税措置として措置されるものです。

## Q 新消防庁舎の基本理念は？

**A** 新消防庁舎建設の基本理念は、

『防災教育の拠点と、災害に強い安全・安心な庁舎』

となります。

教育施設と防災施設が近くにあることは、防災について学ぶ環境が身近に存在し、今後様々な可能性が広がります。

併せて、緊急時にはすぐに対応が可能で、安全・安心がより身近になると考えています。

今後も消防庁舎建設については、市ホームページや広報「げんきみね。」等で掲載していきます。詳しくは美祢市消防本部へご連絡ください。

問い合わせ先 消防本部消防企画室  
☎0837(52)2177